

鳥取市	吉村 美春	学校の 花壇コスモス 揺れてをり 音楽室の 元気な合唱(うた)に
鳥取市	市場 美佐子	コスモスの 畑に隠れ 鬼ごっこ 花粉にまみれし 思い出たどる
鳥取市	市場 美佐子	コスモスの 花咲く頃に 会いましょう リハビリ励む 友との約束
鳥取市	市場 美佐子	コスモスの 明るき花色 ながめつつ 寂しさ潜む 胸の奥処に
八頭町	矢部 須賀野	倒れても その場に根付く 秋桜は 可憐なようで 意外に強い
八頭町	矢部 須賀野	秋桜は 日本の秋を 楚々として 風にまかせて 右に左に
鳥取市	野島 綾子	「コスモス」と 呼ばれし姉の おりしこと 話す父の 眼鏡を見つむ
鳥取市	野島 綾子	色のなき 写真に残る ワンピース 妹とお揃い コスモス模様
鳥取市	野島 綾子	コスモスの 一本生けらる 紙コップ 歯科の手洗い 鏡の下に
鳥取市	北尾 美津子	終戦の 年に生まれし われなれば コスモス80本(はちじゅう) 母に捧げたし
八頭町	山根 則子	通学の 汽車追いかける 我が雄姿 道のコスモス 呆れて笑う
鳥取市	塚田 和喜	幾千の コスモス揺るる 放棄田を 稲穂さがすがに 秋茜とぶ
鳥取市	塚田 和喜	一輪の コスモス活けたる 待合に 吾の名が呼ばる 「さーん」延ばされ
鳥取市	塚田 和喜	小春日の そそと咲きたる コスモスに こちを向けよと かの歌うたう
鳥取市	公納 幸子	のどかなる 若桜鉄道 乗りおれば コスモス揺れて 手を振るごとし
鳥取市	公納 幸子	秋桜の 揺れいるすき間の 丹比駅 杉原一司 見え隠れする
八頭町	加賀田 裕子	丹比駅 アサギマダラと 秋桜が 互いの進路 語らうように
八頭町	加賀田 裕子	4席の 1席残こし 待つ君は コスモス桜きし 丹比駅より
八頭町	加賀田 裕子	若桜線 車窓より見る 秋桜と 夕日の中の 君を見ており
鳥取市	北尾 美津子	鷲峯の 山より降り来る 風受けて 色とりどりの コスモス揺らぐ
鳥取市	北尾 美津子	姪っ子は 浅黄色せし コスモスを 棺のばあばに そっと置くなり
鳥取市	吉田 茅穂子	コスモスの 揺れいる野原に 待合わせ 君と語りし 遠き思い出
鳥取市	吉田 茅穂子	コスモスは 色とりどりに 咲き乱れ 吾が底いにも 花群らさやぐ
鳥取市	小林 啓子	病院の バス停前の コスモスの オレンジ色に 元気もらいぬ
鳥取市	小林 啓子	コスモスの 花に囲まれ 笑みの父 デイサービスの 写真の中に
鳥取市	小林 啓子	写真の中 丹比駅舎を 巡らせば 窓辺にゆれる コスモスの花
鳥取市	房安 栄子	ミルク匂ふ 生後十日の 稚抱いて 窓少し開け コスモスの風
大阪府寝屋川市	柳澤 陽子	青空に映えて咲き揺る秋桜と君を送りし旅立ちの朝
八頭町	佐藤 竜也	道の駅 並びはじめる 梨で知る コスモスの花 咲くよもうすぐ
八頭町	佐藤 竜也	田園で 汗ぬぐって 仕事する 僕を労う コスモスの花
八頭町	佐藤 竜也	紫に 咲く花なんて 目に入れず 柿をぼるよ 籠にたくさん
智頭町	武田 みさを	コスモスや 彩りごとく 我が心 孫を見ながら ふらーりふらふら
鳥取市	山村 祐里枝	あきざくら 揺れる車窓を 眺むれば 遠き日の歌 よみがえる
鳥取市	小林 高枝	信州のコスモス街道歩みしは恐れも知らぬ二十歳の頃に
鳥取市	小林 高枝	一面のコスモス畑ポーズ取るカメラの前ではじける笑顔
鳥取市	小林 高枝	数本の鉢植えコスモス桃色は季節の景色の一部となりて
岐阜県岐阜市	田中 恭司	母の手を 握り病室 あとにして 揺れる心に コスモスの風
岐阜県岐阜市	田中 恭司	山に沿い 川に沿い行く 若鉄に コスモス揺れて そっと寄り添う
岐阜県岐阜市	田中 恭司	若鉄の 沿線に咲く コスモスが 今も変わらず 足音を待つ
鳥取市	吾郷 ゆめ	永遠に 残るあの花 秋桜 初心な心で つくるは幼い恋心
鳥取市	池原 貴雅	こすもすの波に運ばれ通学す 単線をゆく一両の汽車
八頭町	森 亜紀子	一粒の 種から増えて 秋に咲く 桜とか書ひて コスモスを詠む
鳥取市	岡田 悠樹	空を見て 星取県の コスモスを カオスを忘れ 心休まる
鳥取市	岡田 悠樹	コスモスが 辺りに咲きし 来る頃に 食べ過ぎ注意 糖尿病よ

鳥取市	西土井 京子	秋桜は休耕田に咲き群れり高速道路はその上をゆく
鳥取市	西土井 京子	そっと置く君の絵手紙コスモスを風がほわりと撫でていきおり
八頭高校	西村 優希	秋風に 揺れては笑う 薄紅の 花びら重ね 道を彩る
八頭高校	西村 優希	ひとすじに 空へと伸びる 白き群れ 帰り道まで 光を運ぶ
八頭高校	藤原 優	コスモス満ちる この丘が だれもしらない 僕の楽園